
『LIFE』

零那

暁～小説投稿サイト～ By 肥前のポチ

<http://www.akatsuki-novels.com/>

注意事項

このPDFファイルは「暁く小説投稿サイトく」で掲載中の小説を「暁く小説投稿サイトく」のシステムが自動的にPDF化させたものです。

この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「暁く小説投稿サイトく」を運営する肥前のポチに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

『LIFE』

【作者名】

零那

【あらすじ】

きったないもん

吐き出すだけ。

ただそれだけ。

『抹消』

心の隅から隅迄総て吐き出したところで何にも成らない。

そう何にも成り得ないなら殺すしかない。

お互い理解出来てないところなんて当たり前に有る。

脳味噌ぐっちゃぐちゃに掻き廻して心臓は捻り潰そう。

総ての痛みや怒り，憎しみすら消えてしまうように。

いっそ誰かが抹消してくれたら楽なのに。

生まれ代わったらなんて言うけど，生きるだけで面倒臭い「人間」
なんかには二度と成りたくもない。

誰の記憶からも消えてしまいたい。

君の記憶にも残らなければ悲しませずに済む。

人生のやり直しなんて甘っちょろい事は無い。

失っていくものが多く在るのに得るものなんて僅か。

代償ばかりが増えてくだけの人生。

生き甲斐なんて何処に在るんだろうか。

『夢の機械』

握り潰してきた塊がいつの間にか頑丈な鋼に成る。

心臓に蔓延る其れは重くて苦しくて痛くて、それでも消えてくれない。

胸を切り刻めば消えるかな。

ハラワタ抉り出せば無くなるかな。

紙屑みたいに簡単に塵と成ればいいのに。

粉々にしてくれる機械が在れば此の躰ごと飛び込むのに。

そんな夢の様な処理機は何処かに在るかな？

『糸』

糸が切れた。

其れは何の糸なのか誰にも理解の出来ない糸。

今はもう此の世には居ない唯1人だけが解り得た糸。

其れは何が在っても切れてはならない糸だった。

其れが切れてしまえば理性は勿論、心なんてものも欠片すら無くなるから。

だから切れた糸を歪でもどうにか結んでみる。

失いたく無いもの唯1つ此の世にまだ在る。

此の躰、此の心、此の人生の長い時間・・・そんな犠牲だけで済むなら安いものなのかもしれない。

何を犠牲にしても守るべきものが在るうちは救いなんだろう。

そう思えるうちはまだ大丈夫なのかもしれない。

それでもカウントダウンは始まっていることに変わりはない。

『終われない』

悩むより逆らうより我慢することに慣れたつもりでいた。

口に出したって変わらないなら意味がないから。

厄介なだけだし時間が無駄になるのは嫌だから。

そうやって何年も蓄積されてった。

命ある限り終われない日々。

『アレ』

顔の判別もつかない。

性別すら解らなくなってる。

骨格も曖昧な感じ。

何もかもが碎けて粉々で赤の世界に居た。

きっと此の物体はアレに違いない。

『生死』

目を瞑ればいいだけ。

耳を塞げばいいだけ。

口を開かなければ・・・。

心ごと殺せば・・・。

そんな窮屈な処で息はできない。

死んだ方がマシなレベル。

自由で完璧な居場所なんて無い。

解ってる。

求めちゃ駄目なこと。

解ってる。

もう自由を求める事自体諦めなきゃってこと。

解ってる。

此処でしか生きれないんですよ。

言い聞かせるから。

解ってる、だから待って。

今、息をして半分だけ生き還るから。

でも、後半分は殺したまんまでいさせて。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
http://www.akatsuki-novels.com/stories/index/novel_id~25011

『LIFE』

2020年09月24日 12時20分発行